



入江あき子

新年度予算ここに注目!

2019年度 千葉県一般会計当初予算
1兆7608億円

税込増…でも増え続ける借金

県税収入	8264億円 (前年度比+172億円)
法人事業税・法人県民税	1600億円 (+20億円)
地方消費税	2365億円 (+13億円)
県債発行額	1885億円 (前年度比▲91億円)
臨時財政発行債 (地方交付税不足分を県が肩代わりして借金)	1030億円 (-160億円)
建設地方債	786億円 (+69億円)

教育面では一歩前進



県立学校空調設備整備事業 9億1700万円
 県立高校において、これまで保護者負担だったエアコン整備費を県負担とするための予算がようやく計上。

幼児教育・保育無償化 59億5000万円
 10月から満3才未満(住民税非課税世帯)又は3~5歳の子ども利用料を無償に。

まだまだ足りない! 介護の受け皿・担い手

特別養護老人ホーム整備補助 27億円 (目標整備数1200床)
 待機者数 約1万3000名 (うち要介護3~5で独居もしくは高齢者のみが3000人)
 特養ベッド数 約2万7000床 (全国44位)

介護人材確保 3億931万円
介護職 約7万6000人
必要数 2025年度 10万9785人
 潜在有資格者が介護現場で働きやすいよう市町村に研修事業の実施を促し、県が処遇改善に踏み出す必要があります。



入江あき子のプロフィール

- 1965年 仙台市生まれ
- 1988年 国際基督教大学(ICU)教養学部社会科学科卒業
セイコーインスツル株式会社勤務
- 2003~2011年 佐倉市議会議員
- 2011年4月 **千葉県議会議員(現在2期目)**
 - 健康福祉常任委員会委員
 - 会派「市民ネット・社民・無所属」代表
 - 自治体議員立憲ネットワーク所属
 - 千葉県議会地震・津波対策議員連盟所属
 - 千葉県議会資源エネルギー問題懇話会所属
 - ハツ場ダムを考える1都5県議会議員の会事務局長

新規事業で在宅医療を後押し

訪問看護ステーション等出向支援 1160万円
 病院から訪問看護ステーションに看護師を10名程度派遣。訪問看護師不足をカバーするとともに病院側への在宅医療の参入を促進する。



見えない! 新たな産業への方向性

千葉ポテンシャルを活かした産業活性化	3600万円
健康・医療ものづくり推進	4849万円
	(前年比▲200万円)
住宅用省エネ設備導入促進	3億1550万円
	(前年比▲300万円)
地球温暖化防止対策	864万円
ハツ場ダム建設事業	41億円

21世紀の地域分散型エネルギー産業、医療・福祉等の知的集約的産業、生態系ネットワーク構築に向けた予算があまりにも不十分。その一方、かつての高度成長期の重厚長大の無駄な公共事業には巨額の税金を投入。

新年度予算 佐倉市・酒々井町での事業は?

新規

- ・新堤大橋 長寿命化対策 (酒々井町)
- ・認定こども園の整備 (2019年~幼稚園からの移行 / 佐倉市)
- ・特養ホーム1施設創設 (定員100名 / 佐倉市)
- ・特養ホーム1施設増築 (定員50名 / 佐倉市)
- ・県立学校外壁等改修
 - 工事 (佐倉高校・印旛特別支援学校)
 - 実施設計 (佐倉西高校)

継続

- ・印旛沼の堤防嵩上げ (約4割が計画高の5m以下)
- ・高崎川河川改修 (調査・設計・樹木伐採) 進捗率約70%

3/8 議会最終日 全会一致で決議



女児虐待死事件 真相究明と再発防止宣言

今年 1 月、野田市の小学 4 年生の女児が親の虐待により亡くなるという大変痛ましい事件が発生。2 月議会では全会派が柏児童相

談所や野田市教育委員会の認識の甘さやさまざまな対応を厳しく指摘し、虐待対応マニュアルの徹底、市町村や警察・弁護士との連携強化、児童福祉士をはじめ専門職の増員等々、様々な観点から徹底した真相究明と再発防止を強く求めました。現在、県当局は「第三者検証委員会」に検証を委ねていますが、結果を待つのではなく、県自身による内部検証を速やかに行い、改善策を示すべきです。

3/4 健康福祉常任委員会 入江あき子の主な質疑から

県民の命を守る！ 地域医療における千葉県の責任は重大

国際医療福祉大学医学部（成田市）への補助金 35 億円

2017 年 4 月「国家戦略特区」により、政府が例外的に認めた医学部が成田市に新設。大学側は「一般的な臨床医の養成を目的としない」としながらも、千葉県の地域医療に貢献すると約束し、県は大学に 3 年間で 35 億円の補助金を出しています。

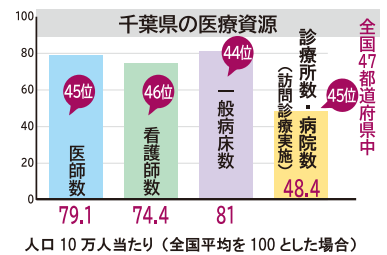
2020 年 4 月に成田附属病院（642 床 / 39 診療科）が段階的にオープンする見通しですが、地域医療における役割や他の

医療機関との連携について、協議が進んでいません。医学部新設にあたっては、印旛市郡医師会や千葉県医師会をはじめ全国医師会も「地域の医師・看護師の引き抜きや患者の奪い合いによる医療提供体制の崩壊」を危惧し、反対を表明していました。県当局に対し、同病院の地域医療への影響を見極め、市民への不利益が生じることのないよう県が責任をもって臨むよう強く求めました。

県立病院の医師不足… 医師の養成に本腰を入れて！

県立佐原病院や県立循環器病センターでは医師不足のため、住民の医療ニーズに十分に答えることができていません。また、研修医など若手医師の確保が難しくなっているため、このままでは病院機能を維持することが、とても厳しい状況です。現場では非常勤等で何とか回していますが、県立病院における研修プログラムを充実させ、医師を育てる息の長い

取り組みが必要です。とりわけ地域医療で活躍が期待されている総合診療専門医を養成するために県病院局が積極的に取り組むよう強く求めました。



ようやく実現！ 訪問看護専用車 10 台購入予定（佐原病院）



県立佐原病院で在宅医療を学ぶ

佐原病院には 24 時間 365 日対応の訪問看護ステーションがあり、約 100 名の患者に看護ケアを提供しています。常勤

看護師 19 名、嘱託 5 名の体制で、2017 年度は 8,094 件の実績。3 年前に現場を視察した折、看護師が自家用車を使って患者宅を回っていることが分かり、この間改善を求めて発言してきました。その結果、新年度に専用車 10 台を購入する予算がつかしました。

東千葉メディカルセンターへの追加支援 補正予算 30 億円

県は、H26 年 3 月末に県立東金病院を廃院し、後医療を東千葉メディカルセンター（314 床 / 東金市・九十九里町が設立主体）に委ねました。しかし、病院開設前から「三次救急（救命救急）を担うには病床が少なく経営的に成り立たないのではないか」という議論があり、不安が的中。同病院は 5 年連続赤字経営で、累積赤字 57 億円・債務超過約 30 億円（29 年度決算ベース）と危機的状況です。

県当局に今回の新たな 30 億円追加支援の考え方を質したところ、「医師・看護師を十分に確保できず、計画どおりに開床できなかった影響額を補てんするもの。H38 年度までの資金ショート見込み額（29 億 9600 万円）への支援ではない」と強弁。それに対し、私は「資本金はわずか 9523 万 5 千円。計画上では 37 年度フルオープン、39 年度に資金収支が黒字化となってい

るが、構造的な赤字体質を変えるための抜本的な病院機能の見直しが検討されていない。処方箋がまったく示されていない段階での追加支援は認められない」と厳しく追及しました。

この問題の背景に「県立病院は高度専門医療に特化し、地域医療から手を引く」という県の方針があり、県立東金病院が廃止されました。県民の医療ニーズを無視した形で進められ、県自身が地域医療を混乱させていると言わざるをえません。県民が安心できる医療提供体制をつくるのは、県の責務です。

入江あき子事務所

住所 〒285-0846 佐倉市上志津 1722-2
電話 043-312-8760 FAX 043-312-8761
mail groundwater.sakura@gmail.com
URL <https://irieakiko.jp/>



入江あき子サイト